

会費集金は会員の心をあつめめる活動です 毎月10日までには集めましょよう
商工新聞は経営のヒント・くらしの知恵がいっぱい 毎週必ず届けましょよう

労働保険の成立手続は お済みですか

～労働者を一人でも雇用していれば労働保険に加入する必要があります～

労働保険とは

労災保険と雇用保険とを総称した言葉で、政府が管掌する強制保険制度です。
労働者を一人でも雇用していれば、加入手続を行わなければなりません(農林水産の一部の事業は除きます)。

労災保険とは

労働者の方が業務中や通勤途上に事故にあった場合に、必要な保険給付を行い、被災された方や遺族の方の生活を保護し、併せて社会復帰を促進する事業を行うための保険制度です。

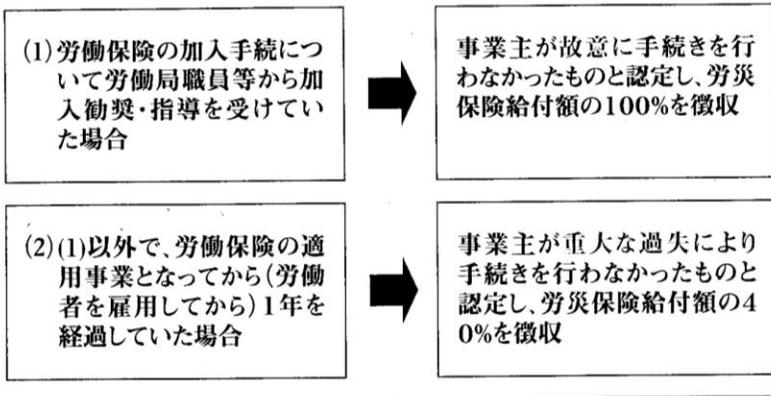
雇用保険とは

労働者の方が失業した場合に、失業手当等を給付したり再就職を促進する事業を行うための保険制度です。
新たに労働者を雇い入れた場合は、保険料の納付とは別に、その都度、事業所を管轄する公共職業安定所(ハローワーク)に「雇用保険被保険者資格取得届」の提出が必要です。

加入を怠っていた期間に労働災害が発生した場合

事業主が故意又は重大な過失により、労働保険関係成立届(労働保険への加入届)を提出していない期間中に労働災害が生じ、労災保険給付を行った場合、事業主から①～②を徴収することになります。

- ① 最大2年間遡った労働保険料及び追徴金(10%)
- ② 以下により、労災保険給付額の100%又は40%



事業のノウハウは自分自身の中にある。 それを引き出す。

その後、後藤さんと安田から事業計画書に基づいた実践を報告していただきました。後藤さんは冒頭、参加者に「事業のノウハウは自分自身の中にある」と助言。5年目の事業計画の内容と実践状況を詳しく説明しました。営業時間は朝8時から夜7時までで、小さな子どもがいるので残業はできない。必要なときは朝4時から仕事をしている。事業計画の内容は仕事をしながら考えているので、子どもが寝た後、それをまとめており、時間はそんなにかかってはいない。「ホームページは最初専門家をお願いしたが、今では、自分で更新できるようになった。『自分を知って欲しい』という思いでやっており、発信していて嬉しい。」と質問に答えました。安田さんは、開業後7か月間の実践報告です。開業が

11月25日の日曜日、民商会館で「2012年経営交流会」が開催されました。参加者は総勢で26名。朝9時から夕方3時半まで、途中休憩の時間や食事の時間も惜しむように、熱心に学び交流しました。この日のテーマは「2013年度の経営計画を立てて実践しよう」です。大変厳しい経済情勢の中、大多数の中小業者が、「何をどうしたらいいかわからない」という中、事業計画をつくり目的意識的に経営する中で、地域から頼られたり、業績を伸ばしたりして、生き生きと事業を前へ進めている仲間もいます。この日は後藤孝雄さん(畳店)と安田浩二さん(介護関連業)のお二人の計画と実践から学ぼうと企画されたものです。

まず、最初に、全国商工新聞の11月4日号にある「事業計画書」の部分全員で読み合わせ。岸田さんと竹田さんが自らの実態に基づいて計算した経験を報告。お二人は共通して、「生活費が思ったよりもかかっていた」との感想を出されていました。

16日間遅れたことでマイナスの影響を様々受けたものの、当初の事業計画を軌道修正しながら進めてきた様子を詳しく報告。参加者へ感銘を与えたのが、スタッフとの関係や採用の仕方です。施設を利用される方々から「スタッフがよくまとまっている」とか「みんなやさしい」との評価を受けているそうです。安田さん自身も、立ち上がり当初に、スタッフの皆さんとともに作成した基本コンセプトが徐々に浸透していることを実感されています。

頭の中で絡み合っていたものが

バラけて戸棚に整理されました。

その後、後藤さん発案の「事業計画書」の書き方を学び、三組に分かれてグループ討論を行いました。自己紹介や報告の感想、質問など、三組とも昼食時間中にもかかわらず活発な討論が繰り広げられました。事務局が20分間だけ強引に休憩にしましたが、幾つも輪ができて交流が続きました。昼1時から、1時間だけ、この日のメインの事業計画書づくり集中して挑戦しました。2時から途中経過をグループで報告。3時から全体会に戻して感想を交流しました。「何かしなければと思っていたことが、今までは絡み合っていた。今日、勉強して、それがバラけて戸棚に整理されたように思う」(竹腰さん)「今まで気持ちでやってきた。細かく計画を立てることも大切だと思いました」(中村さん)、「やることの優先順位をつけること、深く考えることの大切さを感じました」(辻さん)、「書いていくことで現実になっていくことを実感しています。目標とは達成できるものであることを確信しました」(岸田さん)などの感想が寄せられました。この日、途中まで出来上がった事業計画書は「宿題」として持ち帰り、時間をかけて仕上げ、それを12月20日の例会に持ち寄ることにしています。